

大田区立龍子記念館

名作展「大画面の奔流 川端龍子の『会場芸術』再考」の開催について

■開催情報

会 期：令和6年3月20日（水・祝）～6月9日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

休 館：月曜日（4月29日（月・祝）、5月6日（月・祝）は開館し、その翌日に休館）

入 館 料：一般200円、中学生以下100円

※65歳以上（要証明）、未就学児及び障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

■展覧会概要

令和6年度から7年度にかけて、「川端龍子展」が岩手、富山、愛知、島根と本州を縦断するように開催されます。今後、日本画家・川端龍子（1885-1966）の大画面の作品を見たいと望む声は全国でますますと高まっていくことでしょう。そして、特色をもった各地の美術館において、龍子の掲げた「会場芸術」がどのような様相で現れ出てくるのかにも注目が集まるのではないかと考えられます。そこで本展では、龍子が追求し続けた理念である「会場芸術」を、戦前から戦後の大画面の作品を通じて紹介します。

龍子が追求し続けたこの「会場芸術」は、横山大観ら率いる再興日本美術院で龍子が活躍した大正期にさかのぼります。自身の作品に対し、「会場芸術に囚われ、自己中心を捨てて公衆中心になった」（注1）という批判を受けたことから、「展覧会場の壁面で見せる以上、それは特定の少数者のためではなく、広く大衆にうったえるべきである」（注2）という考えを強くした龍子は、大画面作品の制作へと突き進んでいきます。その後、1929（昭和4）年に自らの美術団体・青龍社を設立すると、「会場芸術への主張」（『青龍社第三回展覧会出品目録』1931年）において、日本画が「床の間芸術なるものとは、調子を別にして進展を続けている」ことを指摘し、「大衆と芸術の接触」ために「会場芸術」を追求していく必要があると龍子は主張したのです。そして、1930年代に入り「非常時」と呼ばれた不穏な時代を背景に、時事的な要素を取り入れた大作を次々と発表し、大衆の絶大な支持を得るところとなりました。それから、太平洋戦争をはさんで、1948（昭和23）年に青龍社が創立20年を迎えた際には、「大衆と芸術の接触」の目的からその射程がさらに拡大され、「会場芸術」は「大衆の文化的福祉の享受に協力し、また奉仕しなければならない」（注3）ものとし、戦後復興を大衆とともに歩んでいく姿勢を龍子は示したのです。

本展では、作品を展示する会場の空間性を意識し、さらには作品に時代性を表していくことで、「大衆と芸術の接触」をより密にしていこうとした「会場芸術」について、戦前から戦後の大画面の作品を中心に再考すべく、泥沼化していった日中戦争下に描かれた《花摘雲》（1940年）や太平洋戦争開戦前の不穏な情勢を黒船来航に表した《伊豆の國》（1941年）、そして、終戦の年に描かれた疲弊した龍の図《臥龍》（1945年）、さらには戦後、能楽の演目を描いた《小鍛冶》（1955年）、龍子記念館が開館した年に発表された《海鷗》（1963年）等をとおして、川端龍子の「会場芸術」による大画面の奔流にせまります。

注1 津田青楓「日本画評」『中央美術』7巻10号、1921年10月

注2 川端龍子『わが画生活』大日本雄辨会講談社、1951年

注3 川端龍子「青龍社の二十年」『青龍社創立二十周年記念展覧会出品目録』1948年

■関連イベント

○ギャラリートーク

学芸員が出品作を解説します。

開催日：3月31日（日）、4月28日（日）、5月5日（日）、6月2日（日）

各日 11：30、13：00 から（40分程度）

○地域連携企画事業「風薫る美術館コンサート」

日時：5月25日（土） 18：30～19：30

参加費：無料 定員：50名 会場：龍子記念館 展示室内

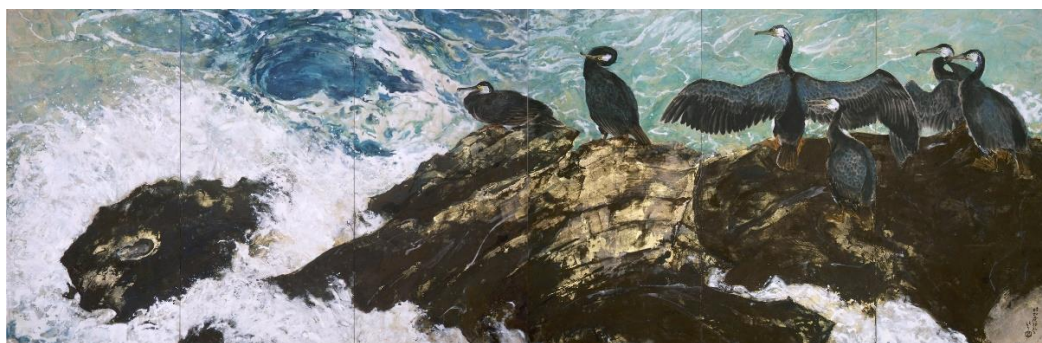
○龍子公園（旧宅・アトリエ）のご案内

当館に隣接する龍子設計の旧宅とアトリエが、解説つきでご見学できます。

開館日の10：00、11：00、14：00から（30分程度）

■主な出品作品（全て大田区立龍子記念館蔵）

○戦後の大画面の作品



川端龍子《海鷗》1963年、大田区立龍子記念館蔵



川端龍子《涼露品》1952年、大田区立龍子記念館蔵



川端龍子《小鍛冶》1955年、大田区立龍子記念館蔵

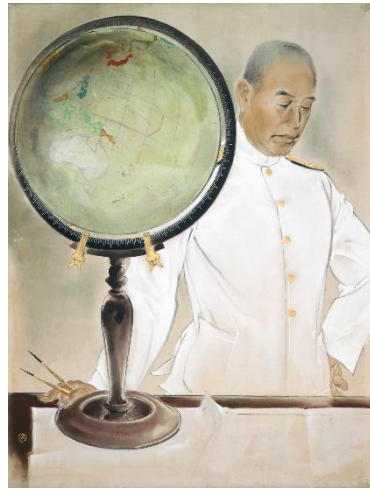
○戦前の大画面の作品



川端龍子《花摘雲》1940年、大田区立龍子記念館蔵



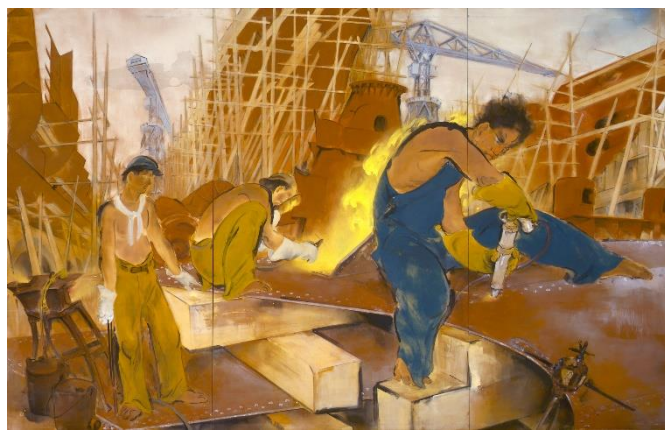
【左上】川端龍子《伊豆の國》
1941年



【右上】川端龍子《越後（山本五十六元帥像）》1943年

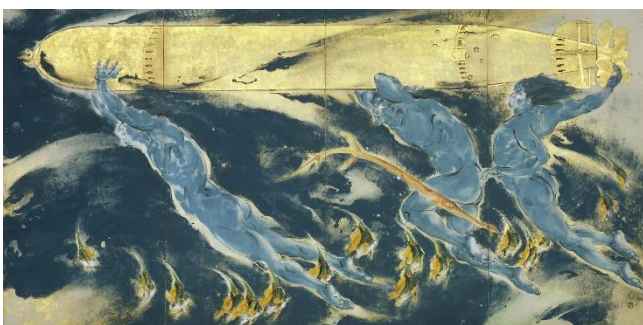


【左下】川端龍子《波切不動》
1934年

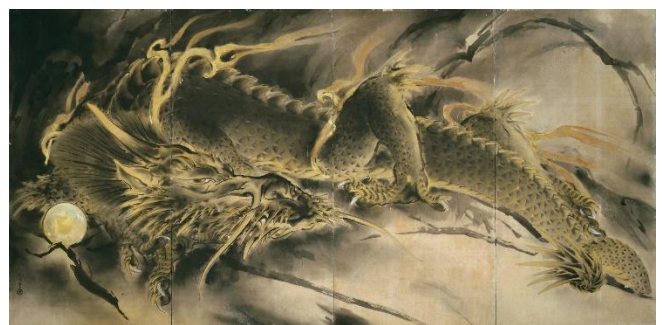


【左上】川端龍子《海洋を制するもの》1936年

いずれも大田区立龍子記念館蔵



川端龍子《水雷神》1944年
大田区立龍子記念館蔵



川端龍子《臥龍》1945年
大田区立龍子記念館蔵

■ 広報についてのお問合せ

本展紹介のための作品画像の使用に関しては、下記までお問い合わせください。

※ 作品画像のほか当館の外観や龍子公園の画像もご用意いたします。

※ 使用に際しては、掲載内容・放映内容を事前に確認させていただきます。

※ 使用后、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館までご送付ください。

【お問合せ先】

大田区立龍子記念館 〒143-0024 東京都大田区中央 4-2-1

TEL&FAX：03-3772-0680 学芸員 木村拓也

■ アクセス

● JR京浜東北線大森駅西口から

東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車、「臼田坂下」下車、徒歩2分

● 都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から

南馬込桜並木通り（桜のプロムナード）に沿って、徒歩15分

